

日経新聞書評で

大反響!

11万部
突破

夢中で読めた。

紛うことなき

徹夜本だ。

僕も人に強く薦めたくなくなったし
それを今こうして実行している。

—— 青崎有吾

雪の断章

佐々木丸美

立て続けに推薦、運命感じて

先々月、あるミステリ好きの学生さんとお会いした際、「ぜひ読んでください」と二冊の本を薦められた。読んだことのない本だった。佐々木丸美『雪の断章』（創元推理文庫）。

「面白いです。ちょっと分厚いですけど、絶対一晩で読めます」

それならば、とお借りしたものの、不精な性格がたたってすぐには読まずにいた。

ところがその数日後。某イベントでビブリオバトル（プレゼン形式で本を薦め合うゲーム）を観戦していたとき、参加者の一人が採り上げた本を見て驚いた。同じ『雪の断章』だったのである。

僕は手を上げ、「ある人からその本は一晩で読めると断言されたのですが、あなたもそう思いますか」と質問した。「読めます」。その方も自信を持ってうなずかれた。

ほんの数日の間に二人の人から、同じ本を強く薦められることなどなかなかない。なんだか運命を感じてしまい、とうとう僕も読み始めた。

結論から言おう。

彼らの言葉は本当だった。夢中で読めた。紛うことなき徹夜本だ。僕も人に強く薦めたくなくなったし、それを今こうして実行している。

作家 青崎 有吾 ②



読書 日記

作家

雪の街札幌を舞台に、孤児の少女と彼女を拾った青年の、十二年に渡る葛藤を描いた染み入るような物語。今年の冬は、雪が降るたびこの本のことを思い出しそうです。

日本経済新聞（夕刊）
2014年12月10日